

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	青少年家庭課長 黒田利恵	電話番号	0852-22-5242
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	子どもと家庭特定支援事業		
目的	(1) 対象	一時保護や特別な支援が必要な児童や家庭	
	(2) 意図	児童の心身や養育上の問題を軽減する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 一時保護：家庭で養育ができない児童等の安全確保や行動観察を行うために、児童相談所等において一時保護する。 ひきこもり等集団指導事業：不登校やひきこもり等の児童に対して、自主性や社会性を養うため、キャンプ等による集団指導を実施する。 		

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	ひきこもり等集団指導に参加した児童数	目標値	168.0	255.0	342.0	429.0	人
		取組目標値						
	式・定義	平成27年度実績をスタートとした述べ参加児童数	実績値	81.0				%
		平成27年度実績+参加見込み数(87人：直近3年の平均参加児童数)	達成率	-	-	-	-	
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					%
			達成率	-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	119,967	143,480
うち一般財源(千円)	103,417	124,373

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5.評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所内一時保護の状況(延べ日数、1人あたりの在所日数) (H27) 5,778日 19日/人 (H26) 6,682日 19.4日/人 委託一時保護児童の状況 (H27) 4,000日 (H26) 3,230日 ひきこもり児童等の集団指導実施状況(開催回数、延べ参加者数) (H27) 4回 81人 (H26) 5回 92人

6.成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> 安全確保や援助方針検討のための行動観察等の理由により、保護が必要な児童について、児童相談所等で一時保護することができた。 不登校やひきこもり等の児童に対して、野外での炊飯・活動や相互交流等を行い、自主性や対人スキルの向上につながる体験ができた。さらには、大人と衣食を共にした時間により、児童の心身の成長に必要な大人との安心できる関係の構築にもつながった。

7.まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭での養育が困難で、一時保護を必要とする児童は減少していない。 一時保護のうち、施設等へ一時保護委託する児童が増加している。 学校で不応を起し、不登校になるなど、対人関係に困難を抱える児童が多い。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済的状態、家族環境、育児方法、子どもの状態など、多種多様な要因が重なり、家庭での養育の困難さにつながっている。 一時保護児童の年齢や状態に応じ、より適切な保護環境の確保のため、乳児院等へ一時保護委託するケースが増えている。 不応等を起す児童は、発達的な問題や虐待等により愛着や情緒面に課題を抱えている。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭での養育を困難にしている児童や家庭の特性を見極め、対応方法や家族調整等の支援を行う必要がある。 児童の個々の状況と保護の目的に応じ、より適切な保護環境を準備する必要がある。 発達や愛着・情緒等様々な課題を抱える児童の特性や状態に合わせて社会性や自立性を育てる支援策が必要である。

8.今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 家庭で養育ができない児童等について、必要に応じて一時保護を実施し、行動観察や心理面接等の所見を活かして養育支援につなげる。 一時保護中の児童にも教育の機会が必要であるため、一時保護中の学習支援を保障する。 一時保護は、その目的や年齢等が様々である。個々の状態に応じ、適切に一時保護を行うため、ケースによって一時保護の委託を行うなどして安心・安全な環境を確保する。 発達障がいやひきこもりの児童に対して社会性・自主性を伸ばす機会を提供するため、集団での社会生活体験活動を実施する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)

--